

南相馬市復興シンポジウム 意見のまとめ

■シンポジウムでの意見・提案

1. 基調講演 《こころひとつに 世界に誇る 南相馬の復興を》 山川充夫氏

- 南相馬市における東日本大震災が残した被災の特徴
- 地域のアイデンティティ ○歩いて暮らせるまちづくり ○安心、安全なまちづくり
- 市民協働のまちづくり ○グリーン化に向けた取り組みや教育機関の確保
- 福島県復興ビジョンについて ○市民により多くの議論が交わされ作成された「南相馬市復興計画」

2. 南相馬市の復興に向けて 藻谷浩介氏

- 南相馬の3市町合併は自然だった
- 原発被害の現状、不安から心を壊さないようにしてほしい
- 原発災害を戊辰戦争にしてはいけない
- 南相馬市の人口の問題は震災を契機にどうにかできる
- 南相馬市復興シナリオ
 - ・ステップ1:放射性物質の計測と除染で家族が安心して暮らす生活を回復
 - ・ステップ2:市内農産品、工業製品の安全を証明し、正常出荷を回復
 - ・ステップ3:原発の近隣地域を再生させる先端地点という地位を確立
- 前向きな地域にこそ、注目が集まり、人とカネが集まる

3. パネルディスカッション 南相馬市の復興に向けて

- 子どもたちが元気に暮らす環境をつくっていけるか(赤坂憲雄氏)
- 地元の皆さんの努力が新しいコミュニティをつくり、100年後のまちをつくる(上昌弘氏)
- 会議から何かが生まれるということに期待している(玄侑宗久氏)
- 市民一人ひとりが主人公となる誇りをもったまちづくりを(中村勉氏)
- 現実を見て考えること(リアリズム)が重要(築瀬範彦氏)
- このような時には、何かにすがり付いてでも、連携していくことが重要(田中章広氏)
- 医療スタッフが不足しており対策が必要(上昌弘氏)
- 放射性物質に過敏になりすぎると不幸な事態に陥る(玄侑宗久氏)
- 人のために分かち合うということを大切にしてほしい(中村勉氏)
- 復興市民会議をどう展開させるか議論する予定(山川充夫氏)
- 南相馬市は新しい風に乗れり変わっていくだろう(赤坂憲雄氏)
- まちづくりは、課題解決に向けて知恵を出し合いみんなで一緒に考えること(築瀬範彦氏)
- 南相馬市の課題は放射性物質に影響を受けた生活復興と雇用の確保(田中章広氏)
- 南相馬市はこころひとつにがんばっていく(桜井勝延氏)
- 行動を起こしていく主体は市民、地域の自立に向けてチャレンジを(山川充夫氏)

1. 基調講演 《こころひとつに 世界に誇る 南相馬の復興を》 山川充夫氏

○南相馬市における東日本大震災が残した被災の特徴

- ・巨大地震、巨大津波、原子力発電所事故、風評被害という4つの多重性のある被害を受けた。生活と就労の場が一体的に破綻した。阪神淡路大震災と比べ、大規模である。
- ・世界にカタカナ文字での「フクシマ」が知れ渡る程の原子力発電所の事故が起きた。
- ・南相馬市においては、3区でその被害の状況が異なる。
- ・「復旧」は震災直後の対応に対して、「復興」は市民一人ひとり立場によってイメージが異なる。一人ひとりが描く将来像を実現して欲しい。
- ・南相馬市の被災の事態をどう復興していくか。その取り組みは双葉地区の「道標」となる。
- ・日本の場合、原子力発電所事故の被害に対して様々に対応してもらい、申し訳ないという雰囲気があるが、被害を受けた南相馬市の事態がどのようなことであるか、発信し続けていく必要がある。市民が帰還し、この地に長く住み続けられるようにしていかなければならない。

○地域のアイデンティティ

- ・今年、伝統行事である「相馬野馬追い」を実施した事実は、地域のプライドを表している。地域の心をどう伝えるか、地域のコミュニティをどう育てていくか、その取り組みが大切。
- ・原風景、景観として再生をしていくことも重要。

○歩いて暮らせるまちづくり

- ・高齢社会において、地域の結びつきを考えると、歩いて暮らせる環境を整えることは重要。
- ・小高区デマンドバスは先進的な取り組みとして評価されている。広域的な道路交通網の整備をどう整備していくかという視点も必要。

○安心、安全なまちづくり

- ・安心、安全なまちづくりの基盤となる信頼関係を築いていく必要がある。

○市民協働のまちづくり

- ・白河市、須賀川市、伊達市の復興会議に関わっているが、どの自治体でも協働のまちづくりがポイントになっている。互いにパートナーシップをもって復興を進めていく必要がある。

○グリーン化に向けた取り組みや教育機関の確保

- ・南相馬市においても、再生可能エネルギー導入が検討されている。6次産業化や地域のブランドについても実施していく必要がある。
- ・これら新しい展開をどうするか。相双地域の問題点の1つは4年生の大学がないこと。放射線関係の研究所設置など、中長期的な観点で進めていくべきではないか。

○福島県復興ビジョンについて

- ・「原子力に依存をしない」を打ち出したこと、「応急的生活再建支援、市町村の応急的な対

応」という待てないことに対応する応急的な対応を切り離したことが特徴である。

○市民により多くの議論が交わされ作成された「南相馬市復興計画」

- ・たくさんの市民の意見に加え、有識者意見も踏まえ計画を検討してきた。
- ・南相馬市復興計画のスローガンは当初「心のふるさと 南相馬に生きる」であったが、帰還できない意味も含む言葉になるのではないかという議論から、全ての市民が帰ってくること、世界に誇る復興を目指すスローガンに変更された。
- ・経済復興の施策については、地域の資源を活かすことが強く打ち出された。
- ・教育・子育て環境の施策については、「人づくり・子育て環境の充実」と変化した。次世代をどう育成していくのか、考えていかなければならない。
- ・原子力災害の克服については、産業復興を絡めながら復興モデルを世界に発信していくことになった。
- ・将来像のイメージは土地利用計画に示している。防潮堤、防潮林、浜街道を再整備する。巨大な構造物をつくるということではなく、武田信玄が笛吹川の氾濫を抑えるために、霞堤、信玄堤を創ったように、減災という考え方で対応していく。再生可能エネルギー基地の整備、農業や漁業の復興、被災地域の高台移転などの考え方を整理している。
- ・今後も皆さんと対話をしながら進めていきたい。世界の南相馬市ここにあり、といえる検討をしていきたい。

2. 南相馬市の復興に向けて 藻谷浩介氏

○南相馬の3市町合併は自然だった

- ・旧3区の関係を見ると、3つの区が一緒になっているのは自然だった、3人兄弟になって、今こそ合併の真価が試されている。歴史を紐解くと、天明の飢饉の時、南相馬市では大量に餓死者が出た際、富山県から多くの農民が移住してきた。その後、二宮尊徳の教えを受けて、大地に行き抜いてきた人たちである。

○原発被害の現状、不安から心を壊さないようにしてほしい

- ・放射能は、体に影響を及ぼすが、福島県ではホールボディカウンターで内部被曝を測定しているため、危険の度合いを監視している点ではほかの地域の人達より安全ということもできる。
- ・問題はむしろ人の心の闇にある。様々な不安から心を壊さないようにしてほしい。

○原発災害を戊辰戦争にしてはいけない

- ・原発災害は、国策に従っていたにもかかわらず裏切られ中央側の犠牲になったことに似ている。福島県は電気を首都圏に送ってきた。しかし、放射能の問題が長引くと、福島が復興しないということがあり得る。
- ・地域振興の看板が沢山あり、地域おこしをがんばっていた飯館村は、震災の1年前、引越して来る人が多くなってきた東北でも2つしかないまちの1つだった。それなのに、なぜ、何も壊れていないのにその地を離れていかなければならないか。
- ・原発被害は100年単位で考える必要がある。原発事故の事実は、即日世界に伝わった。東

北の人の真面目な対応は、世界中の前向きな人たちを味方に付けることができる。

- ・ 1 世紀以上も被害者意識が続くと、加害者側が反省すべきとしても、第三者の気持ちが離れていきかねない。ひたすら頑張っている状況はヒロシマに似ている。ヒロシマが綺麗な街になったことを世界は喜んでいる。原発をいつまで作り続けるのか。いつか止めなければならぬ。「フクシマ」が発信し続けなければならない。

○南相馬市の人口の問題は震災を契機にどうにかできる

- ・ 南相馬市は 20 年前と比べて人口はほぼ半分に減少していた。現在、原町の商店街はシャッター通りになっている。
- ・ 震災と原発事故の被害で、20 年間でゆっくり起きることが、数ヶ月で起きてしまったと考えることもできる。
- ・ 日本全体も同じ。バブルの頃と比べると子どもは 1/3 に減っている。日本の大問題になっているにも関わらず、自覚せずにいることが問題である。せつかくだから、これを契機にどうにかしようという気持ちにならないでしょうか。

○南相馬市復興シナリオ

- ・ ステップ 1：放射性物質の計測と除染で家族が安心して暮らす生活を回復
- ・ ステップ 2：市内農産品、工業製品の安全を証明し、正常出荷を回復
- ・ ステップ 3：原発の近隣地域を再生させる先端地点という地位を確立

○前向きな地域にこそ、注目が集まり、人とカネが集まる

- ・ 良心的なマスコミに情報を流し、世界に発信。
- ・ 人口減少を先取りし、逆手に取ろう！気がついた時がチャンス。

3. パネルディスカッション 南相馬市の復興に向けて取り組むべきこと

○子どもたちが元気に暮らす環境をつくっていけるか（赤坂憲雄氏）

- ・ チェルノブイリでは、2000 のコミュニティが消滅した。衝撃だった。この地域に子どもをどれだけ取り戻せるか。そのためには、子どもたちの生命と健康を守るために、豊かな環境を作ることが重要。
- ・ 放射能の内部被曝に不安を抱えているお母さんたちが、南相馬市にいれば手厚い治療をしてもらえる。何かあったとしても、徹底した対応をしてくれる、そんな環境をつくる必要がある。
- ・ 2 万 7 千人の人が避難している。精神的な亀裂のようなものが、影を落としてしまうことが心配。子どもたちの未来のための動きが、始まってほしい。

○地元の皆さんの努力が新しいコミュニティをつくり、100 年後のまちをつくる（上昌弘氏）

- ・ 震災後、縁があって南相馬市へ来ており、震災後 60 日以上宿泊し医療の手伝いをしている。
- ・ 南相馬市の一人当たり医師数は 2 人、長崎県の離島と同じ位。震災後は 0.5 人と内紛を繰り返すシリア、東南アジアと同じである。九州四国の 1/6。
- ・ 南相馬市には医者が 4 人しかいない。1,500 ベッドに医師 4 人。亀田総合病院では 1,000 ベッドに医師は 500 人がいる。南相馬市の 4 人の医師が市民の内部被曝をホールボディカ

ウンターで測定した。この事実はとても素晴らしい。

○会議から何か生まれるということに期待している（玄侑宗久氏）

- ・議会の歴史は福島県から始まった。南相馬市の市民会議は何度も開催され議論を尽くしてきている。
- ・大きく問われているのは、自然との関わりであると思う。「案じるよりも産むが易し」という考え方で取り組んでいけばよい。
- ・「ころ一つに」という言葉がスローガンに入っている。二宮尊徳の教えに「一円融合」という言葉がある。人も馬も、ころを一つにして取り組んでほしい。
- ・放射性物質については、南相馬市は自分の居る三春町と同程度。冷静に見つめるしかない。

○市民一人ひとりが主人公となる誇りをもったまちづくりを（中村勉氏）

- ・浜通りに20年前からまちづくりの協力をしている。皆さんが主人公であるということコンセプトにして2050年のまちづくりを考えてきた。人口減少や低炭素社会など、まちをよくすることと一緒にやっていかなければならない。そのためのポイントが4つある。
- ・1つ目。原発事故を契機に新しいエネルギーに関する取り組みが導入される。皆さんが考えていないことが始まってしまい、疑心暗鬼になってしまうことが心配。ころ一つにというように、みんなのためになるのだ、という気持ちになる必要がある。
- ・2つ目。新しいまちについては、中心市街地の再生をしてほしい。住民が増えれば、まちは活気を取り戻す。
- ・3つ目。海岸に松林を再生しようという動きがある。小さな小山を一松模様のように配置するなど、復興を契機とした風景づくりをしてほしい。
- ・4つ目。モンゴルの馬頭琴を道の駅で聴いてきた。新しい文化をつくる。誇りをもって、自分達でまちをつくるという気持ちで進めてほしい。

○現実を見て考えること（リアリズム）が重要（築瀬範彦氏）

- ・基本的に大切なことは、リアリズムだと思う。
- ・土地利用について言うと、海岸に防潮林が作られることになるが、土をダンプカーで動かすとなると、1台に10トン運べ、20日ダンプが動かして…、と単純な計算で算出できる。1,000万 m^3 という土を動かすとなるとどの位必要かと考えてしまう。
- ・ポイントは3つあり、それは、お金、時間、主体。役割分担をした中で自分達が進める、と考えればいい。
- ・人間は一人で生きてはいけない。コミュニティの中で生きている。インフラ整備は、孫や子どもたちのために良いまちをつくるということを考えてきた。
- ・これからきっと、被災した人の家を山際につくるなど、現実的な話が出てくる。住み慣れた土地から離れなければならないこともあると思うが、それは、きっと、次の世代のためになるだろう。

○このような時には、何かにすがり付いてでも、連携していくことが重要（田中章広氏）

- ・南相馬市の生活者、青年会議所第42代理事長をしている。
- ・青年会議所は世界と繋がっており、41年間活動している。31名のメンバーのうち1名が津

波の犠牲になってしまった。組織も一時、3～4人に減ってしまった。全国からの救援物資の手配、復興イベントの現地コーディネートを実地で実施している。

- ・復興市民会議の委員としての感想。様々な意見が出され、時間をかけて検討されてきた。
- ・ただ、今回、復興市民会議については、命そのもの、生活に関すること、永きに亘ることなので、必死な意見、様々なアイデアが出された。今までのワークショップと違うことは、当事者意識が強いこと。このような時には、何かにすがり付いてでも、連携して行くことが重要。
- ・青年会議所は1年のため、来月で理事長は終わる。青年会議所ではメンバーが仕事を終わって、事務所に集まって、毎日考えています。人口構造は若年者世代が減っているが、だからこそ、50代、60代の方と話し合っ、戦略を練らなければと考えている。放射性物質の対処は歴史的には多くの事例はないが、みんな考えていきたい。

(赤坂憲雄氏)

- ・TPPはどうか、東日本大震災にどのような影響を与えるか、再生可能エネルギーで地域の雇用を確保できるか。(藻谷浩介氏に質問)

(藻谷浩介氏)

- ・TPPの東日本大震災に与える影響はあまり関係ないと考えている。基本理念は、規模の利点を考え、長く大きくやりましょう、ということ。電気はその理論でいったのですが、問題を生じてしまった。
- ・日本の輸出は減ったという。4・5月減ったが、6月には震災前に戻っている。それを言いつらい空気がある。日本から輸出入の関係をみると、イタリア、フランスは(ワイン、チーズ、オリーブなど)赤字を継続している一方、アメリカ、中国、韓国には黒字。

○医療スタッフが不足しており対策が必要(上昌弘氏)

- ・チェルノブイリでは内部被曝が問題になっている。南相馬市では市民病院にホールボディカウンターがあり測定できる。市長さんは導入するのに大変苦労された。
- ・市立病院のスタッフは、世界で最も知識を持っている。そのお一人が復興市民会議の産婦人科の高橋先生です。癌の進行するお体でお仕事をされている。
- ・福島県には医師が足りない。ピンチだから助けに行こうという先生(10名程度)もいる、市長も尽力しているが、外部からの医師の確保に時間がかからないようにすべき。
- ・亀田総合病院から先生がみえた。仮設住宅で予防接種をすると、地元の医師会が文句を言うと言った。このような先生方を支援してほしい。

○放射性物質に過敏になりすぎると不幸な事態に陥る(玄侑宗久氏)

- ・三春町は東北大学の先生からアドバイスをもらっている。神経質にセシウムを測っている人や子どものお母さんと敵対することがある。おじいちゃんは米を食べるが、子どもは食べられない、という不幸な事態が起きている。
- ・セシウム137、138について、ホームページで公開されている。一方、自然界にある放射性カリウム40は事故由来ではないので、発表する必要はないようだ。

○人のために分かち合うということを大切にしてほしい(中村勉氏)

- ・南相馬で経済を復興に対して、地域振興や地産地消が重要といわれているが、一方では、大きな企業が狙っており、巨大な利権が絡んでくる。南相馬市の人たちで実施してほしい。
- ・本当は仲間であるべきにも関わらず、水俣病が発生した場所でコミュニティが崩壊していった。人のために分かち合うということを大切にしてほしい。

○復興市民会議をどう展開させるか議論する予定（山川充夫氏）

- ・今後、復興市民会議をどうしていくのか、検討しています。12月に議論していく予定です。心を繋ぎとめるか。

（藻谷浩介氏）

- ・相双地域は山口県の港町と似ている。このまちは古いタイプ。役所と市民が分離しており、油と水が分離しているドレッシングのような市だと思うが、赤坂憲雄氏はどうお考えか。

○南相馬市は新しい風に移り変わっていくだろう（赤坂憲雄氏）

- ・福島県は変わっていくだろう。南相馬市においても、その風景は変わっていくことになるだろう。

○まちづくりは、課題解決に向けて知恵を出し合いみんなで一緒に考えること（築瀬範彦氏）

- ・区画整理とは、まちの額縁をつくること。民間に力がある時代はよかったが、最近は民間に力がなくなってきて、額縁をつくっても絵が描けない状況になっている。
- ・コミュニティ形成の例として、10人程度で話し合いをしながら、コミュニティハウスや自治会館をつくるということをしている。
- ・まちづくりのマップを作る場合、商工会、市役所、教育委員会が作る場合、それぞれの視点で作成することになる。しかし、市役所が全体を通してマップを作成することになった。お金がなくて、各課のお金を寄せ集め、マップを印刷した。それでも足りないということになり、地図に記載されている店で1万円寄付してもらって、その代わり、その人のイラストを載せていった。それでマップを印刷した。
- ・まちづくりは、難しく考える必要はない。

○南相馬市の課題は放射性物質に影響を受けた生活復興と雇用の確保（田中章広氏）

- ・NPOはソーシャルビジネスに関わっていることが多い。独居老人の方の食事や排泄のお世話がきっかけとなって、近隣の人のコミュニティを作り上げることができている。
- ・30代・40代の共通認識にある南相馬市の課題は、放射性物質による生活への影響と雇用の問題。
- ・震災後の生活は、自分もそろそろ限界。結婚して1歳未満の子どもがいて、逆単身赴任の状態で生活している。周りの人たちも殆どこれに該当する。家庭が壊れるということは問題。この地域の将来を考える際、家族との生活は重要なポイント。1年はいいいけれど、3年も5年も続けていくことはできない。
- ・雇用の問題は大きい。商工会議所の所属事業所の65%程度は開業している。何とか綱渡りで生きているが収入は半減している。安心、安全も確立できない地域で企業もアップアップの状態です。国の方にも見ていただいて、一緒に対策を考えてほしい。公共だけではなく、民間も入って話し合っていくべきだと思う。

- ・復興に対する意識は高まっている。そのための策を練っていかなければならない。生活、医療、福祉など進めていってほしい。最悪の事態を想定して最善を尽くすということを進めていくべきだと思います。

○南相馬市はこころひとつにがんばっていく（桜井勝延氏）

- ・パネリストの皆さま、市民の皆さま、ご参加いただきありがとうございます。多くの自治体の方にもご支援をいただきありがとうございます。南相馬市はへこたれず、こころ一つにがんばっていきます。
- ・田中章広氏さんの意見、よく分かります。
- ・震災以来、5日間だけ休ませていただきました。北極星のように常に光を発していきたい。
- ・南相馬市は合併して3区が一緒になって、様々な課題がある。この地を離れなくてはならなくなっている方々にも、南相馬市は、今、前進しているということを伝えてほしい。

○行動を起こしていく主体は市民、地域の自立に向けてチャレンジを（山川充夫氏）

- ・何よりも家族を守ることが大切であること、改めて、確認された。きちんとした情報の下で判断していく必要がある。
- ・新しい産業を生み出す。巨大なものがよいのか、地元の身の丈の合ったものにすべきか、考える必要がある。
- ・地域の自立に向けて、新しいチャレンジをしていきたいものです。
- ・何よりも行動を起こしていく主体は、市民であり、そこに関わっていただいている方々である。
- ・市長がおっしゃられていたように、下を向かないということ。
- ・今回、市民の皆さんのご意見を紹介する時間はありませんでしたが、これから、復興市民会議があります。
- ・うつくしま福島未来センターの予算がついた。福島大学も出来るだけの支援をしていく。本日はどうもありがとうございました。